

6月7日：利益確定売りに押され、VN指数は7日ぶりの反落

世界的な原油価格の上昇を受けて石油関連株に買いが入ったが、この日は利益確定売りが多くVN指数は7日ぶりに反落した。

ホーチミン市場のVN指数は1.11%（約15ポイント）安の1358.78ポイントだった。同指数は前日までに6日続伸し、合わせて5.4%上昇していた。

一方でハノイ市場のHNX指数はより下げ、3.38%安の318.63ポイントで取引を終えた。

出来高は引き続き高水準で、両市場（ホーチミン、ハノイ市場）での売買高は11億株以上、売買代金は34兆5000億ドン（15億米ドル）となった。

業種別では銀行、証券株への売りが最も目立った。これら業種はこれまで大きく上昇しており、投資家たちによる利益確定売りを招いた。

銀行株ではベトナム投資開発銀行（BID）、ベトコムバンク（VCB）、ヴィエティンバンク（CTG）、テクコムバンク（TCB）、TPバンク（TPB）、軍隊商業銀行（MBB）、サコムバンク（STB）、アジアコマーシャル銀行（ACB）はどれも1%を超える下げとなり、相場の重しとなった。

また証券株は上昇せず、中にはストップ安をつける銘柄も出た。バオベト証券（BVS）、ウォールストリート証券（WSS）、APEC証券（APS）、アルテックス証券（ART）、ヴィエティンバンク証券（CTS）はストップ安をつけた。

ホーチミン市証券（HCM）、VNダイレクト証券（VND）、FPT証券（FTS）といった大手証券も5%を超える大きな下げとなった。

対照的に、石油関連株は上昇を維持した。ペトロベトナム・ドリリング（PVD）、ペトロベトナム機械組立・鉄鋼構造物（PXS）、ペトロベトナム・ケミカル・サービス（PVC）はそれぞれ買われ、上昇率は4.7～9.6%だった。

世界では原油価格が2年超ぶりの高値となった。

先週、2019年以降初めて北海ブレンド原油先物が1バレル=72ドルを突破した。一方で米WTI原油先物は今年43%上昇し、2018年以来の最高値となっている。

外国人投資家は両市場（ホーチミン、ハノイ市場）で売り越し、売り越し金額は合わせて7040億ドンだった。

実際、外国人投資家は長い間、売り越し続けている。売り越し金額は今年5月に11兆5000億ドンに達した。今年最初の5ヶ月間の売り越し金額は合わせて25兆8000億ドン（11億米ドル）となった。

「現在、ベトナムの市場規模と質は大きく変化しているため、外国人投資家による国内市場への影響は弱まるかもしれない。だが、もし外国人投資家がマーケットで売り越しを続けるなら、それは市場への不安要素になるはずだ」（SSI証券）

多くの市場関係者が株式市場は過熱しており、下落リスクを孕んでいると注意を促す。

今年に入ってVN指数は23.6%、HNX指数は40.5%上昇しており、短期的な利益確定売りを招く可能性がある。

「VN指数が1400ポイントに向かう間に、投資家は利益確定を優先するのが良い。そして利益確定売りを受け、同指数が1350ポイント、1300ポイントあたりの下値支持線に落ちてきたら再び買い戻しするのが良い」（サイゴン証券）

ディスクレイマー

このニュースは、投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定はご自身の判断でなされますようお願い申し上げます。このニュースは、信頼できると考えられるFiinProという情報源に基づいて作成されていますが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。このニュースは、Japan Securities Incorporated (JSI) から直接提供するという方法でのみ配布いたしております。このニュースのいかなる部分も一切の権利はJSIに帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。